

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：渡島地区
- 2 事例報告学校名：北斗市立萩野小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 西 館 純
- 4 キーワード：地域の教育力を生かした特色ある教育課程の実践例

1 はじめに

本校がある北斗市旧大野地区の歴史は古く、本道水田発祥の地としても知られる。本地域は、北海道開拓の口火を切ったところであるが、厳しい自然との闘いが長く、現在の美田が作られたのは辛苦を重ねた父祖先人の業績によるものであり、子孫の豊かな生活の礎はここにある。

その中で本校は、開校121年目を迎える歴史と伝統ある学校である。一時は児童数減少により複式学級となった時期もあったが、校区内に市営団地や住宅地が造成され、児童数は増加し、現在は児童数115名の完全単式の学級編制となっている。

2 合言葉は「持続可能」

ふるさと学習（いなっ子学習）と銘打ち、地域の協力を得て推進している総合的な学習の時間。ここ数年、試行錯誤しながら、持続可能な計画を目指し、右の構造図にまとめた。

(1) 5年生「米作りに学ぶ」

地域の稲作農家による開発地域環境保全会の協力により、ここ数年で5年生の学習に定着してきた、稲作を通しての学習。今年度は、JAの協力を得て、直播米「えみまる」の出前授業も取り入れた。



苗の説明を聞く



田植え体験



生長観察



稲刈り体験



(2) 4年生「ネギ栽培に学ぶ」

JA青年部からお話をいただき、今年度から始めた学習。JA青年部による北斗市の地場産業である野菜を通しての食育事業と学校のふるさと学習の方向性が一致し実現に向かう。どちらも手探りの段階から連携が始まったが、販売体験まで終えた児童の様子からは達成感と充実感を確認することができた。JA青年部とは、成果と課題を共有しながら次年度以降も4年生の学習として取り組んでいくことを確認し、持続可能な計画がまた一歩進むこととなった。



畑の一部に看板設置



定植作業



土寄せ（軟白部分を長くする）



収穫体験



販売準備も完了



販売体験（10分で完売）

(3) 6年生「北斗市のよさ」

今年度はテーマを手話と設定し、北斗市聾協会や手話通訳の方々へ計8回手話を学ぶ。挨拶や自分の名前、誕生日の伝え方の他、手話コーラスも学んだ。学習発表会でその成果を発表し、当日来校した講師の先生方から、手話表現によるたくさんの拍手をいただいた。



手話学習の様子



手話で自己紹介（学習発表会）



講師の方と発表会後の交流

3 終わりに

地域の協力のもと、4年生「ネギ栽培に学ぶ」5年生「米作りに学ぶ」6年生「北斗市のよさ」と持続可能な計画を編成・実施することができた。今後は、3年生もJA青年部の協力をいただき、トマト栽培を通しての学習が成立しないかを探っていこうと考えている。実体験を伴う地域の教育力を生かした学びは、効果が絶大である。今後も、地域の協力のもと、持続可能な本校ならではの特色あるふるさと学習を構築し、地域の活性化と子どもたちが地域への理解と愛着を深める教育活動を推進していく。